

一般社団法人日本サンゴ礁学会
2024/25 年度 第 4 回理事会 議事録

【日 時】 2025 年 8 月 5 日 (火) 18:00～21:30

【場 所】 Zoom によるオンライン開催

【参加者】

| | | |
|----------|-----------------|-------------|
| 会長 | | : 中野義勝 |
| 理事 (6 名) | 学会誌担当理事 | : 波利井佐紀 |
| | 広報・社会連携担当理事 | : 中村隆志 |
| | 学会戦略・国際連携担当理事 | : 渡邊敦 |
| | サンゴ礁保全・調査安全担当理事 | : 菅浩伸 |
| | 庶務・会計担当理事 | : 木村匡 (欠席) |
| 監事 (2 名) | 大会担当理事 | : 山下洋 |
| | | : 宮本育昌、和田直久 |
| 事務局長 | | : 水山克 |

【議 題】

●審議事項

(1) 委員会規則の制定

各委員が自覚をもつこと、できるだけ多くの方が委員長を経験し、理事候補者となることを期待して委員会規則を制定する (中野)。

教育・普及啓発委員会、広報委員会 (中村)

上位規定である会則と重複する委員長の任命に関する条項 (草案の第 2 条 2、3) は削除する。

保全学術委員会、サンゴ礁調査安全委員会 (菅)

現在作成中。

大会実行委員会 (山下)

大会運営時のアルバイトの契約主体、労務・安全管理の責任の所在について問題提起がなされた。事故発生時の責任主体が委員会なのか学会法人なのかを明確にする必要性が議論された。

国際連携委員会、戦略委員会 (渡邊)

国際連携については素案作成済み。会議、報告について、必要戦略委員会は作成中。

委員長経験者が副委員長に就任するケースは妨げない方向で、人材の流動性を確保するべきとの意見が出た。

委員の委嘱には理事会の議決が必要という現行の会則について、運用をスムーズにするための意見が出た。しかし、会則の変更が必要となるため、当面は現行の規則を維持し、理事会での承認 (メール審議など) を得る運用とすることになった。

各委員会で規則を整備し、内容の統一感を持たせることが提案された。各委員会の実情に合わせた上で、規則案を事務局で集約し、標準化された規則を理事会で審議する。

(2) 大会要旨のフォーマット変更について>山下

大会要旨集（電子版）を国立国会図書館で公開することになったため、要旨に掲載する情報に制限をかける必要性が生じた。目安として日本語 700 字、英語 300 ワード程度とし、発表要旨を 1 ページに制限する案が提案された。

⇒ 大会要旨フォーマットの変更について、提案通り承認された。

(3) 第 28 回日本サンゴ礁学会・第 9 回日本共生生物学会 合同大会後の若手交流会>山下（波利井）

日本共生生物学会との合同大会に合わせ、若手研究者間の交流促進を目的とした交流会を 12 月 1 日に瀬底研究施設で開催する案が提案された。

⇒ 日本共生生物学会との共催であることを明記する修正をした上で、スノーケル体験以外の企画については、提案通り承認された。

スノーケル体験については、安全管理責任者が両学会の実行委員長であると明記すること、主催者向けの賠償責任保険への加入が実施の絶対条件であること、誓約書の内容が法的に有効となるように再検討することが指摘された。また、安全管理実施者（ワッチ）の待遇（有償化、保険加入）についても検討が必要であることが指摘された。

予算については、大会費用として次年度予算案に計上することが指示された。若手の会の組織的な位置づけが不確定であるため、予算支出の根拠がない状態であり、別途議論を行うことが確認された。

(4) 学会ホームページの運用方針>中村

ウェブサイト更新の停滞問題を解決するため、運用方針の見直しが提案された。共有アカウントを廃止し、編集者ごとに個別アカウントを作成すること、各委員会が自らのコンテンツの更新責任を負うこと、そして広報委員会を統括責任委員会とすることが提案された。ただし、ファイルのアップロード権限など、技術的な課題については別途整理が必要。

⇒ 学会ホームページの運用方針について、提案通り承認された。

ウェブサイトでセキュリティ警告が生じており、WordPress で利用している PHP のバージョンが古いこと、また、共有サーバーを利用しているため他の事業者がブラックリスト入りすると巻き込まれることが原因と考えられる。

⇒ サーバーについては、追加料金を払って独自のサーバーを利用することで部分的に解消する見込みがある。WordPress のバージョンアップについては、ウェブサイト構築時の業者に広報委員会を通じて連絡し、対応を依頼する方向で調整する。PHP バージョンアップに伴う費用が発生する場合は、次年度予算に計上する。

(5) 公式 YouTube チャンネルの開設>中村

教育・普及啓発委員会で作成した学会 PR 動画の公開に向けて、公式 Youtube チャンネルの開設が提案された。合わせて、公式 Youtube チャンネルの開設に必要な Google アカウントを個人アカウントではなく、法人アカウントとして複数人で管理できる体制が望ましいと提案された。大会運営で利用している Google アカウントにおいても、アカウントの運営で同じ課題があることが認識されている。

⇒ 公式 YouTube チャンネルの開設について、提案通り承認された。Google Workspace の法人アカウント（有料）を作成することについて、今後検討を行うことが承認された。動画の公開に際しては、リスク管理の重要性を認識し、炎上防止策としてコメントオフや無断転載・悪意のある利用を防ぐためのルール設定などを検討するよう指摘があった。また、動画コンテンツの品質管理として、トーン&マナーについても検討するよう指摘があった。

(6) その他

論文賞選考結果について（波利井）

日本サンゴ礁学会和文誌の論文賞選考について、選考経緯・選考理由の説明が行われ、受賞候補論文が提案された。

⇒ 提案の通り、承認された。

暫定版大会プログラムの編集について（中村）

ニュースレターが年 4 回から 3 回に減少することに伴い、編集者への補償として、今年度の大会プログラムの編集を依頼することが提案された。

⇒ 提案の通り、承認された。広報委員会が、仕様変更（ニュースレター 3 回＋プログラム作成 1 回）に基づいた見積もりを業者から取得し、人件費上昇を考慮した上で次年度予算を申請することとなった。暫定版大会プログラムの公開に向けた段取りは、大会実行委員会、広報委員会、大会担当理事で別途協議することとなった。

●報告事項

(1) 委員会活動・計画

教育・普及啓発委員会（中村）

学会 PR 動画を作成した。公開に向けて、学会公式 Youtube チャンネルの作成を検討している。

サンゴ礁調査安全委員会（菅）

昨年大会中に自由集会を行った。サンゴ礁での調査潜水に係る安全管理についてのアンケートを行った。研究者の津波対応ガイドラインの作成、科学潜水啓発シンポジウムの実施を行った。会員 2 名、有識者 1 名、を新規委員として委嘱した。シルバン委員長が海外へ異動したことに伴い、菅理事が暫定的に委員長を兼務することになった。

学会誌編集委員会（波利井）

英文誌・和文誌ともに J-STAGE へのアップロードが順調に進行している。論文賞（和文誌）の選考を行った。

(2) 学会 HP での寄附ページの開設>木村（水山）

寄附金取扱規則の制定、取扱口座の開設、寄附金取扱窓口（学会 HP）の開設をもって必要な準備は全て完了した。

(3) 選挙結果の報告>木村（水山）

6月30日に15名の代議員が確定した。役員・代議員選任規則 第23条により、本日の理事会での報告をもって、明日から任期が始まることとなる。

(4) 大会準備状況>山下（波利井）

一般公開シンポジウムを1日目の夕方に実施すること、懇親会を開催しないこと、大会参加申込を9/1~9/30の1回とすることが大きな変更点として報告された。一般公開シンポジウムの英語話者に対する対応、台湾サンゴ礁学会の基調講演の候補者について検討が必要。

(5) 代議員による理事候補者、会長候補者の選挙>水山

現在代議員に対してメール選挙を行っている。8月14日回答期限、8月15日開票を予定。

(6) メールアドレスの確認作業（会員名簿、ML、会費請求システムの突合）>水山

sangoMLについては、全会員の約5~6割（約300名）に届いていることが判明した。会員管理システムの変更に向けて、メールアドレスの整理を行っている。

(7) 会員管理システムの検討>水山

会員自身が情報を更新できる、新しい会員管理システムを次年度中に導入できるように検討を進めている。

(8) 後援先からの報告>水山

本会から後援を行った、JpGU（日本地球惑星科学連合2025年大会報告）、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会（サンゴ礁ウィーク2025）から、事業終了の報告を受けた。

(9) その他

● 事業計画書のフォーマットの改訂（中野）

現行のフォーマットが所掌委員会を把握しにくい構造であるため、理事会が重点課題を提案し、各委員会が事業計画を作成する二段階の形式に変更する案が報告された。これにより、委員会の役割が明確になることが期待される。

● 戦略委員会について（中野）

現在の戦略委員会はメンバーが多すぎて日程調整が困難で機能不全に陥っているため、よりコンパクトな構成に再編する方針が提案された。最終的な意思決定は理事会が行い、戦略委員会は諮問機関としての役割を明確化する。また、

代議員の積極的な関与を促すことの重要性も述べられた。現在、英文誌の完全電子化、若手の会の位置づけ、など戦略委員会での検討事項としているものを理事会で審議する。

- 学会ロゴの使用規約について（中野）

外部業者からの問い合わせを機に、学会ロゴの使用規約が未整備であることが判明した。過去の規約案は存在するものの、不十分なため、正式な規約を策定する必要がある。現有の規約案をもとに検討することとし、担当は広報担当理事とされた。

- 年度末のスケジュールについて（水山）

事業監査・会計監査以外の総会資料が9月末に完成することを目指し、事業報告書・事業計画書の提出および予算案の提案をお願いします。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び出席監事の全員がこれに記名押印する。

令和7年8月5日

一般社団法人日本サンゴ礁学会理事会

代表理事 中野義勝 ⑩

監事 宮本育昌 ⑩

監事 和田直久 ⑩